

**b 小中一貫教育において、生きる力を効果的に育む学校制度の理解と選択**  
**【義務教育学校】と【併設型小学校・中学校(併設型中学校・小学校)】の双方の特徴の理解と選択**

・小中一貫教育校 **【義務教育学校】**とは

法令の根拠：学校教育法第一条 この法律で、学校とは、幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、大学及び高等専門学校とする。第三十八条 市町村は、その区域内にある学齢児童を就学させるに必要な小学校を設置しなければならない。ただし、教育上有益かつ適切であると認めるときは、義務教育学校の設置をもってこれに代えることができる。

.....  
 小学校過程から中学校過程までの9年間の義務教育を一貫して行う学校。6-3制度に縛られる必要がなく、小学校・中学校通して一つの教職員組織(一人の校長)となっている。前期・中期・後期などゆるやかなまとまりで、効率的な学習が期待できます。  
 .....

・小中一貫教育校 **【併設型小学校・中学校(併設型中学校・小学校)】**とは

法令上の根拠：学校教育法施行規則第79条の9「同一の設置者が設置する小学校(中学校連携型小学校を除く。)及び中学校(併設型中学校、小学校連携型中学校及び連携型中学校を除く。)においては、義務教育学校に準じて、小学校における教育と中学校における教育を一貫して施すことができる。

.....  
 同じ設置者(教育委員会)が、小学校と中学校を併設して小中一貫教育を行う学校。小学校と中学校の枠組みを残しつつ、小中一貫教育に取り組む運営形態、形式上は小学校と中学校は別組織(小学校長1 中学校長1)です。  
 .....

.....  
 以下は**【義務教育学校】**と**【併設型小学校・中学校】**の一般的な特徴を示しました。双方によさがありますし、得意なところがあります。

【義務教育学校】の特徴	【併設型小学校・中学校】の特徴
○校長一人、小中1つの職員組織です。	○校長は、小学校1人、中学校1人、職員集団は小中で別組織です。
○系統的・継続的な学習による教育効果が期待されます。特に校舎一体型の学校では、教科内容や教科間の関連性を意識した指導計画(順序)を工夫でき、児童生徒の理解が難しくつまずきやすい内容は指定学年以外でも繰り返し指導したり、前学年で時間を割いて重点的に指導したりするなど工夫が可能となります	○小学校5年6年生の教科担任制度を、小学校・中学校の連携により、可能な範囲で行います(校舎一体型であっても義務教育学校よりは少なくなります。別々の学校組織であるため)
○系統性を意識した小中一貫教育、異学年交流による精神的な発達がより望めます	○学年の区切りは、6-3制度が一般的で今まで通りです
○小学校と中学校の段差をなくすことで、中1の壁や小中ギャップと呼ばれる状況	○小学校6年生、中学校3年生が、学校行事などにおいて重要な立場となり、リーダーシップや自主性が養われます。
	○6年生で小学校卒業という達成感が味

<p>の解消につながる効果があります。</p> <p>○小・中学校の6-3制度によらず、9年間の中で子どもたちの発達段階を熟慮し、効果的な教育課程を組み児童生徒の指導を行うことが可能です(4-3-2制度など)。</p> <p>○小1～中3までが一つの学校で、多くの交流の機会を持つことができます。異学年交流の学校行事などを通じて、上級生から下級生に対する思いやりの心、上級生・下級生の規範意識、下級生から上級生に対する憧れの気持ちなどの醸成が期待され、社会的・精神的な発達効果も期待されます。</p> <p>○特例:指導内容や基準をかえることはできませんが、9年間を「全体の学びの場」と考え、子どもの実態や理解程度、指導内容の系統性を考え、指導する時期(学年)や指導時数のある程度柔軟に考えることが可能です。</p> <p>○1つの学校で9年間継続して指導が行われます。小中教員間で情報を共有しやすく、効果的な生徒指導を行うことができます。生徒の特性・よさ・課題等に応じたきめ細やかで継続された生徒指導が可能となります。</p>	<p>わうことができます。</p> <p>○中学校の入学式があり、新しく中学校に通う新鮮さが生まれ、心機一転の機会をもつことができます。</p> <p>○小学校段階の異学年の交流や学年の縦割り活動などは、従来の通り行えます。中学校との縦割り交流は限られると考えます。</p> <p>○小学校と中学校が別組織になりますので、中学生との発達段階の差に対する配慮は義務教育学校より少なくてすみます。</p> <p>○小学校・中学校の別組織であるが、一貫教育の効果を上げるべく、定期的な小中合同研修会、小・中合同生徒指導委員会等を実施することで、通常の小・中学校連携より効果を上げることが期待できます。</p> <p>○併設のよさを生かし、小学校教諭途中学校教諭の合同研修会や合同生徒指導委員会等を行うことにより、従来型の小中学校よりも、連携を図った生徒指導が可能です。</p>
--	---

小中一貫教育を行ううえで、昭和村にとって、2つの学校制度のどちらが優位か、記載したメリットあるいはそれ以外のメリット・デメリットを想像しながら協議を行い、選択してまいります。どちらの学校制度を選択しても、小中施設一体型校舎とお考えください。